インドネシア語の類別詞

SRI WAHYUNI*

SRI WAHYUNI

NUMERAL CLASSIFIER IN INDONESIAN

ABSTRACT

Indonesian is the national language of the Republic of Indonesia. Recording to Aikhenvald (2000), this language is grouped to the numeral classifier (CL) language. The study of numeral classifier of Indonesian language resulted to classified it into three class i.e. individuation, collective and portion. Individuation could be divided into 3 categories; that is human, animal and inanimate. CL“ orang ”is used for human, CL ” ekor ”for animal. CL“ buah ” is for inanimate and also for a matter whose classifier is not known. CL “ orang ” cannot use for dead human and also CL “ ekor ”for dead animal. For an Indonesian speaker, the classification of numeral classifier of Indonesian language does not emphasize on the animate or inanimate, but is based on the“ moving ”or ”unmoving.” Due to this (“ moving ”and“ unmoving ”), the flora classified as inanimate. Collective could be divided into 7 categories i. e. categories based on a non fixed number of each group, categorized based on the fixed number of each group, categorized based on bunch or bundle, categorized after separation from their stem, categorized base on accumulation form, categorized based on the stratum, and categorized based on the pairing. Portion could be divided into 6 categories i. e. categorized based on parts of the whole, monetary value, measurement unit, time, shape and activities .

（Key words： Collective, individuation, Indonesian, numeral classifier, portion)

１．導入

Bahasa Indonesia 「インドネシア語」とは、インドネシア共和国で国語として、利用されている言語である。1928年のインドネシア青年会議で ”Kami bangsa Indonesia menjunjung bahasa persatuan Bahasa Indonesia ”「われらインドネシア人は、唯一の言語インドネシア語をもつ」ということを決議の一部とする「青年誓詞」を議決した。そこから、Bahasa Indonesia という語句が誕生し、統一語となった（Muhadjir, 2002 ; Hasan, 2000 ; Halim, 1989; Keraf, 1984 ; Alisjahbana, 1957)。

インドネシア語の根源は、古くからインドネシア諸島で交易用語として利用されていたマレー語である。これは、1920年代、民族主義の高揚の中で、意識的に公用語となっていた（Alisjahbana, 1957：34)。また、独立後、インドネシア共和国1945年憲法（現行）の第36条において、インドネシア共和国の国家語として、形式的に指定されている。

Masinambow (2002) によれば、交易用語としてマレー語からインドネシア共和国の国語地位に変更されたのは、進化的ではなく、正式な合法的かつ憲法的なプロセスであると記されている（本書p.12参照)。インドネシア語はマレー語からできた言語であるため、Chung (2000), Hudson (2000), Hopper (1986) など、たくさんの言語学者はインドネシア語とマレー語を同言語として発表した。しかし、Alisjahbana (1957) によれば、インドネシア語はマレー語と同言語ではなく、インドネシア語はマレー語の延長であると主張されている（本書p.35参照)。

インドネシア共和国では、約700の地方言語がある（Masinambow、2002：2)。公用語としてインドネシア語は、それらの言語からの影響を受けてくる。また、インドネシア語には、オランダ語とジャワ語経由のサンスクリット語からの借用語が目だって使われているということである。Hasan (2000) によれば、現在のインドネシア語は、源流としてジョホールのマレー語と大分異なっていることが解明された（本書p.15参照)。

世界の語族の分類に関して、インドネシア語は、オーストリア (Austria) 語族に属される意見とオーストロネシア (Austronesia) 語族に属される意見が二つ存在する。一つは、Alisyahbana (1957) ではSchmidt (1926) に基づき、インドネシア語はオーストリア (Austria) 語族に属すると書いている。また、オーストリア (Austria) 語族は、オーストロアジア (Austroasia) 語脈とオーストロネシア（Austronesia）語脈と二つに分け、さらに、オーストロネシア語脈は、インドネシア語派とオセアニア語派に分類した（本書p. 106参照)。

*　島根大学大学院教育学研究科教科教育専攻国語教育専修

もう一つは、Cristal（1987）とHudson（2000）に書かれているように、オーストロアジア（Austroasia）とオーストロネシア（Austronesia）は別々の語族として、区別されている意見である。さらに、インドネシア語は、オーストロネシア（Austronesia）語族の中に属していると述べられている。また、Cristal（1987）によると、オーストロネシア語族は、通常、西語派と東語派という二つの主要な語脈に分けられ、インドネシア語は、西語派に属している（本書p.317参照）。地域的な広がりからは、オーストロネシア語族に対して、しばしば与えるもう一つの名称である「マラヨポリネシア語族」（Malayo-Polynesian）にも反映されている[1)]。この語族に対しては、Blust に基づき、Adelaar（1985）もマラヨポリネシア語族という名称をつけている。

インドネシア語の使用人口が、どの程度に達するかは不明である。これは、大部分のインドネシア人にとって、インドネシア語は、母国語ではなく、第二の言語として使う言語だからである。日常会話の言語は、様々な地方言語であるため、日常会話のインドネシア語使用人口は、インドネシア共和国の人口と異なるのである。Muhadjir（2002）によると、1980年のインドネシア国勢調査により、日常会話のインドネシア語話者は、インドネシア人口の12.18%で、すなわち、17,913,236人であると述べているが、Hudson（2000）によると、インドネシア語の使用人口は150,000,000人であると述べている。Muhadjir の記述の計算でいくと、インドネシア地方の一つの言語「ジャワ語」の使用人口（約90,000,000人）は、インドネシア語使用人口よりもっと大きいということがわかっている。しかし、国家語としてインドネシア語使用人口が母国語としても、第二言語としても、全てのインドネシア人であれば、インドネシア語使用人口は、Muhadjir と Hudson の研究結果よりもっと大きいと言える。なぜかというと、現在のインドネシア人口は約210,000,000人に超えるからである。

Aikhenvald（2000）によると、インドネシア語は、類別詞を持っている言語と記されているが、インドネシア語の類別詞に関する研究は、著者の知るかぎりでは、いまだに、まだ詳しくされていない。インドネシア語の類別詞については、Keraf（1984）、Brataatmaja（1987）、Ramlan（1990）、Kridalaksana（1994）、Hasan（2000）、Walujeng（2002）、Kentjono（2004）などがインドネシア語文法の本の中で手短に説明されている。

本稿では、インドネシアの小説やマスメディアなどからの著者が集めた類別詞のデータの結果や以上のインドネシア語文法の本及びインドネシア語大辞典に基づいてインドネシア語の類別詞の特徴を詳しくまとめていくことにする。ここで言う類別詞とは、数量類別詞という意味である。水口（2004）によれば、数量類別詞は、数量表現と義務的に現れる類別詞で、「助数詞」とも「量子」とも呼ばれることがあると述べている。研究方向としては、インドネシア語の類別詞の範疇化や類別詞の種類を確定すると考えている。

2．インドネシア語の類別詞の統語的特徴

インドネシア語で、事物を数える際に、様々な類別詞を用いる。類別詞が含まれている文の語順は次の二つのパターンで構成される。

（1）. 数詞―類別詞―名詞　[NUM-CL] N

（1）a. tiga　orang　anak
↓　↓　↓
数詞　類別詞　名詞
three　CL　children

b. dua　ekor　ayam
↓　↓　↓
数詞　類別詞　名詞
two　CL　chicken

（2）. 名詞―. 数詞―類別詞　N [NUM-CL]

（2）a. anak　tiga　orang
↓　↓　↓
名詞　数詞　類別詞
children　three　CL

b. ayam　dua　ekor
↓　↓　↓
名詞　数詞　類別詞
chicken　two　CL

この類別詞句と名詞の語順が複数あるのは、焦点が数自体にあるのか、名詞自体にあるのかによって決定される。そこで、例１のように、類別詞句が名詞の前に置かれる場合は、類別詞が取っている数に焦点があり、逆に、例２のように、類別詞句が名詞の後ろに置かれる場合は、名詞句に焦点があると言える。しかし、原則として、類別詞句内では、数詞がいつも類別詞の前になければならない。これは、三保（2004）の記述によると従って、助数詞「類別詞」とは数量を表す語（基数詞）に添えて、数え量ろうとする事（対象）の種類や性格、内容や形状等を類別したり、その範疇を示すことのできる接尾語の一類であるということである。類別詞が接尾語であるため、数詞と類別詞は、離すことも順番を変えることもできない（本書p.３参照）。

（3）a. Dia mempunyai tiga orang anak
「彼は子供が三人いる」
b. Dia mempunyai anak tiga orang
「彼は三人の子供がいる」

（4）a. Dia mempunyai tiga anak orang
b. Dia mempunyai anak orang tiga.

上記の例により、例（3）. a.とb. にある orang は、類別詞として、機能を持っているが、例（4）a.と b. にある orang は、類別詞として機能を持っていない。例4）a. には、数詞と類別詞が離されるため、かつ、例4）. b. には、数詞と類別詞の順番を変えるため、文として成り立たない。

類別詞句内では、基本的に数詞を類別詞に直に接続させて、組合せる。しかし、例外として、satu「１」という数詞は類別詞に直に接続させると、数詞１は「satu」から「se」という接頭辞に変わる。

（5）a. satu + ekor → seekor
b. dua + ekor → dua ekor
c. tiga + ekor → tiga ekor

３．インドネシア語の類別詞の分類

調査したところによると、類別詞を分類するには、Aikhenvald（2000）と水口（2004）と二つの意見が存在する。Aikhenvald（2000）では、Lyon（1977）に基づき、類別詞が sortal と mensural の二つに分類されている。ここで言う sortal とは、個々のユニットを個別に数える類別詞であり、さらに、mensural は、量を表す類別詞であることを意味する（Aikhenvald、2000: 14-115）。

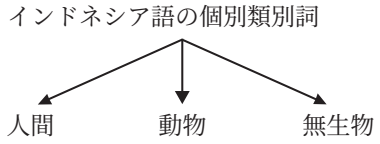
次に、水口（2004）であるが、この水口論は、Aikhenvald と異なり、類別詞が三つに分類されている。その三つの類別詞とは、個別類別詞、集合類別詞、計量類別詞である。

インドネシア語の類別詞の分類において、本研究では、水口（2004）の分類に基づき、それぞれ、個別類別詞、集合類別詞、計量類別詞以上三つの分類に従い、考えていきたいと思う。以下、インドネシア語の類別詞について細かく見ていきたいと思う。

3.1 個別類別詞

個別詞類別詞とは、「最小のユニット」、つまり個体が１つひとつはっきりしているものを数える類別詞で、名詞ごとにどの類別詞を使えるかが言語ごとに決まっている（水口、2004）。本研究では、インドネシア語の個別類別詞の範疇を定めるため、個別類別詞においては、Lyon（1978）の成分分析（componential analysis）理論に基づき、分析した。インドネシア語話者にとって、個別類別詞を使用し区別するためには、「±animate」と「±mobile」という、それぞれ二つの意味部門（semantic component）があると考えられている。Animacy は、有生性という意味合いを持ち、生物であるか無生物であるかという区別を表す。また、mobility は、自立的に動くことが可能であるかどうかという意味合いを含む。

インドネシア語の個別類別詞の範疇は人間、動物、無生物という三つの弁別的特徴によって分けることができる。それら三つの範疇には、それぞれを統括する類別詞が存在する。それは、人間では、orang という類別詞、動物では、ekor という類別詞、そして、非人間、非動物はbuah という類別詞である。生物学的に、植物は生物であるが、意味部門（semantic component）には、「＋animate」、「－mobile」であるので、基本的に、インドネシア語話者の考え方において、「－mobile」に注目するため、無生物の部類に含まれる可能性が高い。インドネシア語の個別類別詞分布の詳細は次の図のように描くことができる。



非人間、非動物或いは無生物名詞については、buah 以外にも様々な類別詞が存在するが、どの類別詞を用いるのか分からない場合、buah が汎用的に用いられるので、無生物を代表する類別詞として考えてもよい。無生物名詞は、種類の数が多かったため、それに対して、分類する場合には、たくさんの類別詞で表す。それぞれの類別詞は、形状や機能によって分かることができる。次に、個々のインドネシア語の個別類別詞について、詳しく見ていくことにする。

3.1.1 人間を示す類別詞　Orang

人間を指すインドネシア語の類別詞 orang は生きている人間だけに対してしか用いられる。死んだ人間は（インドネシア語ではmayatと呼ぶ）意味部門に、「－animate」、「－mobile」の範疇を持っているので、orang という類別詞を使わない。死んだ人間を数える時には後述の sosok という類別詞を使う。

インドネシア語で、orang という名詞は、人間という意味である。類別詞としてorang は、manusia「生きている人間」を数える他に、malaikat「天使」や bidadari「天女」などの超自然的な存在にも使われる。しかし、この類別詞は、setan「魔王」や hantu「妖怪」など悪を意味する超自然的な存在に対して用いられない。天使や天女などに対して用いられるのは、基本的なインドネシア語話者の考えでは、天使や天女などの超自然的な存在は人間のような善的な存在であることを意味しているからである。逆に、後者の魔王や妖怪など悪を意味する超自然的な存在は、人間のような善的な行為を持っていないことから、orang という類別詞を使用されていないのはそのためである。

（6）a. dua orang wanita
Two CL woman
２人の女性
b. sepuluh orang guru
ten CL teacher
10人の先生
c. lima orang malaikat

five CL angel
５人の天使

d. tujuh orang bidadari
seven CL fairy
7人 の天女

インドネシア語では、神様に対して、orang という類別詞も使用されていない。これは、国本として、パンチャシラ[2] では、すべてのインドネシア人は一つの神様を信仰しなければならないからである。

3.1.2 動物を示す類別詞 Ekor

動物を示す類別詞 Ekor において、インドネシア語話者の基本的な考え方として、すべての動物に尻尾（ekor）があるという考えが、一つの大きな概念となっている。そのため、動物を数える際に、ekor という類別詞が使用される。対象物として、binatang buas「猛獣」、binatang ternak「家畜」、burung「鳥」、ikan「魚」、serangga「昆虫」次いでにbakteri「細菌」といった微生物までも含まれる。大きさや種類に関わらず、全ての動物が対象となっている。

（7）a. seekor beruang hitam
one CL bear black
１頭の黒熊

b. tiga puluh ekor gajah
thirty CL elephant
30頭の象

c. dua ratus ekor sapi
two hundred CL cow
200頭の牛

d. tiga ekor anak ayam
three CL chick
３羽の小庭鳥

e. lima puluh ekor ikan cakalang
fifty CL fish
30頭のマグロ

f. seekor kupu-kupu kuning
one CL butterfly yellow
１匹の黄色チョウ

g. dua ekor lalat
two CL fly
２匹の蝿

3.1.3 無生物を示す類別詞

インドネシア語の指示対象における分類から見てみると、無生物対象の類別詞の存在は、非常に大きい。その理由として、無生物の種類が多かったためであり、それに対し、多くの類別詞で表現されるようになったことが挙げられる。インドネシア語の無生物類別詞は、形状や機能によって下位のような範疇に細分化される。

（1）Buah

Buahは、無生物や自立的に動くことが不可能事物を指す汎用的な類別詞である。Buah という類別詞は、無生物なだけの対象ではなく、生物学的には有生物である植物も対象となる。植物は有生物であっても、自立的に動くことが不可能であるため、インドネシア語話者の基本的の考え方においては、無生物のカテゴリーとなる。インドネシア語では、数を数える際に、他の類別詞が思い浮かばない場合、あるいは、それに該当しない場合において、buah を使用する。Buah が対象とする範疇はかなり広い。それは、以下のようなものである。

1．乗り物: mobil「車」、sepeda「自転車」、sepeda motor「バイク」、kapal「船」、pesawat「飛行機」など
2．建造物：gedung bertingkat「建物」、rumah「家」、sekolah「学校」、perusahaan「会社」、gubuk「小屋」など
3．家具：kursi「いす」、meja「机」、lemari「戸棚」、ranjang「ベッド」など
4．食器や台所道具: cangkir「コップ」、piring「皿」、mangkok「茶碗」、periuk「鍋」、sendok「スプーン」、gelas「グラス」など
5．地理的な名称：gunung「山」、danau「湖」、negara「国」、pulau「島」、laut「海」、kota「都市」、hutan「森、林」、teluk「湾」、lembah「谷」など
6．果物：rambutan「ランブータン」, mangga「マンゴー」、durian「リアン」、nenas「パイナップル」、pepaya「パパイヤ」、pisang「バナナ」など
7．抽象概念： rencana「計画」、perjanjian「契約」、persoalan「問題」、ide「着想」、siasat「策略」、usul「提案」、rancangan「企画」など
8．駅や駐車に関する場所：stasiun「駅」、halte「停留所」、tempat parkir「駐車所」、terminal「終点」など

（2）Sosok

上記で述べたように、インドネシア語では、生きている人間を指す類別詞と mayat「死んだ人間」を指す類別詞が異なっている。生きている人間の対象に用いられる類別詞は死んだ人間の対象に用いられる類別詞と置き換えることができない。死んだ人間は生きている人間のように自立的に動くことができないため、orang という類別詞は用いられない。この場合、sosok という類別詞が使用される。しかし、sosok という類別詞は bangkai「死んだ動物」に対しても用いられない。 Bangkai「死んだ動物」を数えるときには、「bangkai」という言葉に数詞を加えて数える。Mayat「死んだ人間」の他に、sosok という類別詞は、jin/setan「悪魔」や hantu「妖怪」、bayangan「暗い所にもぞもぞ動いているもの」などに対して使用される。

（8）a. sesosok mayat
one CL corpse
一体の死体

b. tiga sosok jin

three CL devil
三匹の悪魔

c. dua sosok hantu
two CL ghost
二匹のお化け

(3) Batang

Batang は、丸く長いものを示す類別詞である。Batang が示すものとして、鉛筆やタバコ、木など、形状的に長いもの、丸い形を特徴とするものに用いられる。この類別詞は、川を数える場合にも使用される。これは、川が長いという形で、その意味で用いられたかどうかは明らかにされていない。

(9) a. sebatang pohon kelapa
one Cl palm tree
一本の椰子の木

b. sepuluh batang pensil
ten Cl pencil
十本の鉛筆

c. tiga batang rokok
three Cl tabacco
三本タバコ

d. sebatang sungai
one Cl river
一本の川

(4) Bentuk

Bentuk という単語は、指輪や、腕輪、ネックレスなどのような装飾品を数える場合に使う類別詞である。その他に、釣針のような曲げるものが対象になる場合においてもこの類別詞を使用する。装飾品に対し、この類別詞が用いられるのは、多くの装飾品が金や銀などを曲げて作ったものであることが想定される。

(10) a. dua bentuk cincin
two Cl ring
二個の指輪

b. lima bentuk gelang
five Cl bracelet
五個の腕輪

c. tiga bentuk kalung
three Cl necklace
三本のネックレス

d. sebentuk kail
one Cl fishhook
一本の釣針

(5) Bidang / Petak / Tumpak/Piring/Kapling

これらの類別詞は、どちらも地面を数える際に使用する。Bidang と petak はどちらも tanah「土地」、ladang「畑」、sawah「田」などのような「表面」を対象とする類別詞である。インドネシア語において、bidang という名詞は「境界がある平らな表面」という意味を表し、また、petak という名詞は「間仕切りがある間」という意味を表す。このことにより、類別詞としての bidang が対象となる表面の広さは petak よりさらに広いことが分かる。また、Sawah「田」に対して、petak の他は、piring という類別詞もよく使用する。類別詞petak の広さは類別詞 piring の広さと大体同じである。Piring という名詞は「皿」という意味を持つ。Sawah「田」のブロックは皿と似ているため、piring で数える可能性が高い。よって、Sawah「田」を数えるときに、piring と petak の類別詞は置き換えることができる。Petakという類別詞は、toko「店」を数える場合などにも使用される。

(11) a. dua bidang tanah
two CL land
２面の土地

b. sebidang sawah
one CL rice field
１面の田

c. tiga bidang kebun karet
three CL farm land gum tree
３面のゴム畑

d. dua petak sawah ～ dua piring sawah
two CL ricefild
２面の田

e. dua belas petak toko
twelve CL shop
２軒店１

f. sepetak tanah
one CL land
１面の土地

また、Tumpak という類別詞も tanah「土地」、ladang「畑」、sawah「田」のような表面を数えるときに使う類別詞である。しかし、この tumpak で数える場合、「いくつかの～」という意味が含まれる。例として、setumpak sawah (one CL rice field) を挙げるとしたら、これは、「いくつかの sawah「田」がある」という意味である。

Tumpakと異なり、kapling という類別詞は、sawah「田」、とladang「畑」に対して使わず、宅地を数えるときに使う。

g. dua kapling tanah
two CL place
２面の宅地

(6) Biji / Butir

Biji という名詞には「種」という意味がある。類別詞として biji は種子や植物の実あるいは果物などを数える際に使用する。その他、mata「目」や kelereng「びー玉」などの小さくて丸いものを数えるときにも使う。

(12) a. dua biji kacang tanah
two CL peanut
２粒のピーナツ

b. tiga biji jagung
three CL corn
３粒のとうもろこし
c. dua puluh biji buah mangga
twenty CL mango
３個のマンゴー
d. tiga biji salak
three CL salak (fruit name)
３個のサラク
e. tiga butir kelapa
three CL coconut
４個のココナツ
f. dua biji mata
two CL eyes
２つの目玉
g. lima biji kelereng
five CL glass ball
５つのびー玉

Biji という類別詞と同様、butir という類別詞も「小さくて丸いもの」を意味する。よって、mata「目玉」を除き、biji で数えられる全てのものは butir と置き換えることができる。つまり、普段類別詞bijiで数えることが可能で類別詞 butir と置き換えることができるものは「果物」や「種子」といったものが対象とされる。例外として、「果物」、「種子」ではない、上記の類別詞 biji の例で挙げた、kelereng「びー玉」は類別詞 butir に置き換えることができる。おそらく、kelereng「びー玉」はかつて「種子」、あるいは「果実」からできたものを使用していた可能性があることからそのように考えられる。その他に、類別詞 butir が対象となるものは、mutiara「真珠」やperuru「鉄砲玉」、telur「卵」などのものが挙げられる。

(13) a. sebutir beras
one CL rice
１粒の米
b. tiga butir kelapa
three CL coconut
３個ココナツ
c. sepuluh butir telur
ten CL egg
10個の卵
d. sebutir mutiara
one CL pearl
１個の真珠
e. dua butir peluru
two CL bullet
２発の鉄砲玉

(7) Bilah

類別詞Bilahはpisau dapur「包丁」や pisau belati「短剣」、pedang「刀」、golok「なた」などのようなものを数える場合に使う類別詞である。このことから、類別詞 bilah が、対象とするものは細く、良く切れる鋭いものであることが条件とされる。

(14) a. dua bilah pedang
two CL sword
２本の刀
b. sebilah golok
one CL hatchet
１柄のなた
c. sebilah pisau belati
one CL knife
１剣の短剣

(8) Helai / Lembar

Hela i と lembar はどちらも「形状的に平たいものや細いもの」を示す類別詞である。しかし、両類別詞が使用される範囲は異なっている。Helai が対象とするものは lembar より、かなり広範囲に渡る。類別詞 helai は pakaian「衣類」やkertas「紙」、cermin「鏡」、kaca「ガラス」、papan「板」、daun「葉っぱ」、kasur「布団」、selimut「毛布」など、平面状的なものから rambut「髪」や benang「糸」などのような細いものに対して広範囲に渡り使用される。しかし、類別詞 lembar は、細いものに対してのみ使用される。つまり、類別詞 lembar で数えられる全てのものは、helai で置き換えることができるが、類別詞 helai で数えられる全てのものは、類別詞 lembar で置き換えることができないと言える。

(15) a. sehelai kertas koran ～ selembar kertas koran
one CL newsprint
１枚の新聞紙
b. dua helai pakaian ～ dua lembar pakaian
two CL clothes
２枚の衣類
c. empat helai kaca ～ empat lembar kaca
five CL glass
４枚のガラス
d. sehelai papan ～ selembar papan
one CL board
1枚の板
e. tiga helai daun pisang ～ tiga lembar daun pisang
three CL leaf banana
３枚のバナナの葉
f. selembar tikar ～ sehelai tikar
one CL mat
一枚のござ
g. sehelai kumis ～ *selembar kumis
one CL mustache
１本のひげ
h. sehelai benang ～ *selembar benang
one CL string
一本の糸

(9) Mata

類別詞としての mata は、以上にある「目玉」という意味の mata とは全く別な意味を持つ。ここでの類別詞 mata は、ナイフなどのとがった部分を持つものを対象に使われる。例として、類別詞 mataは、bor「ドリル」や pisau「ナイフ」、jarum「針」、pulpen「万年筆」などのような先端が鋭くとがったものが挙げられる。

(16) a. bor dua mata
drill two Cl
２本のドリル

b. pisau lima mata
knife five CL
５本のナイフ

c. jarum tiga mata
needle three CL
３本の針

d. pulpen sepuluh mata
pen ten CL
10本の万年筆

(10) Laras / Pucuk

類別詞としてのlarasと pucuk は、どちらも武器を数える際に使用する。類別詞larasより類別詞 pucuk の方がより広範囲に使用される。類別詞 laras は senapan「鉄砲」のみにしか使用不可であるが、それに対し類別詞 pucuk は tombak「やり」、pistol「ピストル」、meriam「大砲」などの senapan「鉄砲」以外の武器に対しても使われる。Pucuk が対象とするものは、先端が鋭いであるものが条件とされる。

(17) a. sepucuk senapan ～ selaras senapan
one CL gun one CL gun
１丁の鉄砲

b. lima pucuk tombak
five CL spear
１本の槍

c. sepucuk pistol
one CL pistol
１丁のピストル

類別詞 pucuk は、武器以外に、surat「手紙」を数えるときにも使われる。これは、名詞としての pucuk の意味と深い関わりがあると考えられる。名詞の pucuk の意味の一つに、「芽吹く前の若葉」という意味がある。以前の手紙の形状は、その若葉の形によく類似していることにより、手紙を数える際、pucuk を用いることになったと考えられる。

d. sepucuk surat
one CL letter
１枚の手紙

(11) Gulung / Kayu

Gulung は丸めたものを示す類別詞である。つまり、「平たいものや細いものを丸めている状態」を表すものを対象にしている。例として、tali「紐」slang「ホース」のように細いもの、 kasur「布団」、tikar「ござ」などのような平たいもので、インドネシア人の生活において、伝統的に丸めでしまっておかれるものが挙げられる。しかし、film「フィルム」は、元来、丸められたものであっても、伝統的に、インドネシア人の生活の中になかったため、film「フィルム」を数える際、類別詞 gulung は用いられない。この場合、英語の「ロール」を使用する。

(18) a. segulung tali nilon
one CL string nylon
１本のナイロンの紐

b. dua gulung slang air
two CL hose
２本の水ホース

c. lima gulung tikar
five CL mat
５枚のござ

d. dua gulung kasur
two CL mattress
２枚の布団

Kayuも類別詞 gulung と同様、丸めたものを示す類別詞である。しかし、kayuが対象とするものは、丸めた広い紙や布のような薄くて平たいものである。

(19) a. dua kayu kertas embun
two CL blotting paper
２枚の吸取紙

b. tiga kayu kain putih
three CL cloth white
３枚の白い布

(12) Keping

Keping は「切れ切れあるいは切れ端」という意味がある。しかし、個別類別詞としての keping は「切れ切れものや切れ端もの」に対して使うのでなく、papan「板」、uang logam「硬貨」などを数える際に使用する。これは、papan「板」は pohon「木」を分けてできたものであり、uang logam「硬貨」は金属を分けてできたものであるということから考えられよう。

(20) a. dua keping papan
two CL board
１枚の板

b. lima keping uang logam
five CL coin
５枚の硬貨

(13) Tampuk

Tampuk は果実を数える際に使う類別詞である。対象となる果実の種類としては、manggis「マンゴスチン」や pinang（実の名）など「へた」持っている果実を条件とする。

(21) a. sepuluh tampuk manggis

ten CL manggosteen
10個のマンゴスチン

b. setampuk pinang
one CL areca
１個のびんろうじ

（14）Utas

Utas は細長いものに対して使う類別詞である。対象とするものは benang「糸」や tali「紐」のようなものである。例（15.h）でも述べたように、細いものに対しては、helai という類別詞でも数えられるが、この二つの類別詞を使用する際の微妙な違いとして、類別詞 helai で数える場合、細さを注目し、逆に、類別詞 utas で数える場合、長さを注目する点である。

（22）a. empat utas tali
four CL string
４本の紐

b. seutas benang
one CL thread
１本の糸

（15）Unit

類別詞 unit は英語からの外来語である。インドネシア語での類別詞として unit は、mobil「車」、radio「ラジオ」、pesawat telepon「電話機」、televisi「テレビ」など精密な部品を内臓する機器を数える場合に使われる。これまで、インドネシア人は、このような機器、機械を持たなかったため、外来語を借用するようになったと考えられる。

（23）a. satu unit truk
one CL truck
１台のトラック

b. tiga unit telepon seluler
three CL hand phone
３台の携帯電話

c. satu unit telepon rumah
one CL phone
１台の電話機

d. dua unit televisi
two CL television
２台のテレビ

（16）Kajang

15で述べたように、かつて、インドネシア人は機械、機器などのものを持たなかった。これまで、インドネシア人がものを運ぶための輸送道具あるいは機具として pedati「牛車の二輪の車」が使われた。この pedati を数える場合は、kajang という類別詞が使用する。

（24） sekajang pedati
one CL pedati
２台の牛車

インドネシア語では、以上のように生産的に用いることができる類別詞のほかは、特定のものにしか使わない類別詞も存在する。それは以下のようなものがある。

（17）Berkas

Berkasはcahaya「光」に対して使う類別詞である。

（25）seberkas cahaya
one CL
１本の光

（18）Kaki

類別詞 kaki は payung「傘」を数える場合に使う類別詞である。

（26）sekaki payung
one CL umbrella
１本の傘

（19）Kuntum

Kuntum は bunga「花」を数えるときに使う類別詞である。Kuntum で示す花は、すべての花の種類を表す。

（27）a. sekuntum mawar merah
one CL red rose red
１本の赤いバラの花

b. sekuntum bunga melati
one CL jasmine
１本ジャスミンの花

c. dua kuntum bunga anggerek
two CL orchid
２本のランの花

（20）Rawut

Rawut はwajah「顔」のみに対して使う類別詞である。

（28）serawut wajah
one CL face
１面の顔

（21）Rawan

Rawan は jaring 或いは jala「網」を数えるときに使う類別詞である。Jaring とは、「小さい網」という意味であり、また、jala とは「大きい網」という意味である。

（29）a. dua rawan jala
two CL net
２枚の網

b. serawan jaring
one CL net
１枚の網

（22）Patah

Patah は kata「言葉」に対して使う類別詞である。

（30）sepatah kata
one CL word
１言の言葉

（23）Ruas

Ruasという類別詞は、道路を表す。

（31）seruas jalan
one CL road
１本の道路

3.2 集合類別詞

集合類別詞は、個体がいくつか集まって「最小のユニット」を作る類別詞である。このタイプの類別詞は、メンバーの数を云々するのではなく、メンバーから取られているグループに焦点があると考えられる（水口、2004:13-14）。

インドネシア語では、集合類別詞は以下のように分類することでがきる。それは：

1．流動的な集まり
2．総計的な集まり
3．個別のものを束ねたもの
4．枝分かれしたまとまり
5．堆積状に集まったもの
6．層状になったもの
7．ペアのもの

次に、それぞれの集合を表す類別詞について詳しく見ていくことにする。

3.2.1 流動的な集まりを数える類別詞

流動的な集まりを数える類別詞は、生物学的に生物であるものの集団に対して使う類別詞である。よって、このカテゴリーに含めているものは、人間、動物及び植物である。集団中の生物の数は決まっていないことが条件である。この種類に属する類別詞は以下の五通りである。

（1）Kelompok

Kelompokは人間の集団を表す。Kelompokは同質の人間の集まりを表す類別詞である。この類別詞kelompokは、人間の数や集まりの目的などが特に決まっていないと考えられる集団を表す。

（32）a. sekelompok anak muda
one CL young men
b. sekelompok murid
one CL pupil

現在、インドネシア語では、kelompokという類別詞と英語からの外来語grup（group）という単語がしばしば置き換えられる。例えば、dua grup band（two CL band）とdua kelompok band（two CL band）は同じ意味であるので、置き換えることが可能である。しかし、32 a. と 32 b. の類別詞kelompokはgrupに置き換えることができない。

（2）Regu

インドネシア語では、reguという言葉は英語からの外来語であるtim（team）と同じ意味である。よって、regu或いはtimの両単語を置き換えることが可能である。Reguは、人間がある目的の下に集まった集団を表す類別詞である。目的が明確な集団、グループを表すため、kelompokよりreguの方がより詳しく集団の内容を表す。

（33）a. dua regu pemain bola voli
two CL volley player
b. satu regu tentara
one CL soldier

以上の二つの例により、類別詞reguは目的が決まっている明確な集団ということが分かる。dua regu pemain bola voliと言えば、少なくともメンバーに24名の「バレボール選手」がいるという意味であり、satu regu tentaraと言えば、メンバーに12人あるいは14人の「軍人」がいるという意味を表す。

（3）Kawanan

Kawananという類別詞は、「人間」と「動物」の集団を対象とする。しかし、対象となる人間は、全ての人間ではなく、perampok「強盗」のような悪的な行為を持つ人間である。また、この類別詞は、その人間の他は、動物、特に野生動物の集団を数える場合に使う。

（34）a. dua kawanan gajah
two CL elephant
b. sekawanan perampok
one CL burglar

（4）Gerombolan

Kelompokと同様、gerombolanも人間の集団を表す。しかし、類別詞gerombolanが対象となるものは、普通の人間ではなく、悪的な行為を持つ人間を数える際に使用する。よって、上記の類別詞kawananと置き換えることができる。

（35）dua gerombolan pemberontak
two CL rebel

（5）Rumpun

Rumpunは植物の群がりを表す類別詞である。対象とする植物は、一つのような根子を持つ植物の群がりである。類別詞rumpunは、padi「稲」やpisang「バナナ」、bambu「竹」、serai「香気のある草の名」、bunga「花の類」などのような生えた状態の植物の群がりを数えるに対して使う類別詞である。通常、この植物の群がりの中には、何本の数があるのか決まっていない。

（36）a. lima rumpun padi
five CL rice
b. dua rumpun pisang
two CL banana
c. serumpun bambu
one CL bamboo
d. serumpun serai
one CL serai （andropogon sp）
e. dua rumpun bunga mawar
two CL rose

3.2.2 総計単位の類別詞

インドネシア語では、数多いのものがある場合（例えばダースの様に）、個別類別詞に数えられない。複数を一まとめにして数える場合、個別類別詞ではなく、総計単位の類別詞を使う。本来、総計単位として数えられるものは、無生物である。インドネシア語の総計単位の類別詞には、下記のものがある。

（1）Kodi

Kodiは、20の倍数の物を集めた時に使う総計単位の類別詞である。Kodiで数えられるものとしては、平らな物である場合が多い。例えば、“ sekodi papan ”といえば、「20枚のpapan「板」がある」という意味を表す。

（37）a. dua kodi pakaian
two CL clothes
b. sekodi selimut
one CL blanket

（2）Lusin

Lusinという総計単位の類別詞はオランダ語のdozenからの外来語である。インドネシア語では、dozenがlusinという単語になり、12の倍数を表す総計単位の類別詞である。類別詞Lusinが対象とする物は、主に文房具や食器などのような12個ずつ集められた小さな物の集まりである。

（38）a. dua lusin pena
two CL pen
b. selusin pensil
one CL pencil
c. tiga lusin piring
three CL dish
d. lima lusin gelas
five CL glas

（3）Gros

Lusinのように、grosもオランダ語からの外来語である。インドネシア語で、総計単位の類別詞としてgrosは、12　lusinの倍数の数を集められたものを数えるときに使う。よって、lusinが対象とするものはgrosが対象とするものと同じである。

（39）a. dua gros pena
two CL pen
b. satu gros pensil
one CL pencil
c. tiga gros piring
three CL dish
d. lima gros gelas
five CL glas

（4）Rim

Rimは、集められた紙を数えるときに使う総計単位の類別詞である。数多いの紙がある場合、インドネシア語では、以前述べた紙を数える場合に使う個別類別詞のhelaiを使わず、rimという総計単位の類別詞が使われる。Rimとは480~500枚ぐらいの倍数の紙を集めた場合に使う総計単位の類別詞である。

（40）a. dua rim kertas HVS
two CL HVS paper
b. tiga rim kertas buram
three CL paper dim

（5）Pak

Pakという総計単位の類別詞もオランダ語からの外来語である。インドネシア語では、pakという総計単位の類別詞はrokok「タバコ」やteh「紅茶」、garam「塩」などのようなものを工場で20箱或いは20袋入りに包んだものを数えるときに使う。

（41）a. dua pak rokok
two CL tabacco
b. tiga pak garam
three CL salt
c. dua pak teh
two CL tea

（6）Tukal

Tukalという総計単位の類別詞は糸の包装単位を表す。Tukalというのはrianで束ねた糸を16ずつ束ねたものを数えるときに使う（rianは3.2.3.の（3）に説明する）。

（42）setukal benang
one CL thread

3.2.3 個別のものを束ねたものを数える類別詞

インドネシア語の個別のものを束ねたものを数える類別詞の種類は、以下のように分けることができる。

（1）Ikat/ Berkas /Bundel

Ikatはkangkung「えんさい」やbayam「ほうれん草」、daun ubi「カッサバの葉」などの野菜やkayu api「薪木」を束ねて縛ったものを数えるときに使う類別詞である。また、berkasとbundel、この二つの類別詞は、どちらも何枚かの紙を束ねて、はさまれたものを数えるときに使用する。しかし、類別詞berkasは、紙を束ねたものの他は、束ねた藁やほうきをつくるための束ねた椰子の葉の芯を数える際にも使用する。

（43）a. dua ikat kangkung
two CL kangkung（the vegetable name）
b. tiga ikat bayam
three CL spinach
c. seikat daun ubi
one CL life cassava
d. lima ikat kayu api
five CL firewood
e. lampiran dua berkas
appendix two CL
f. seberkas jerami

one CL straw
g. sebundel surat
one CL letter

(2) Rangkai
Rangkai は花束を数える場合に使用する。
(44) tiga rangkai bunga
three CL flower

(3) Kelindan / Rian
Kelindan と rian、この二つの類別詞は、どちらの類別詞も束ねた糸に対して使う計量類別詞であるが、この二つの類別詞の使い分けは、束の形状によって区別される。Kelindanは、紡錘で巻きつける糸を数える類別詞である。一方、類別詞rianは、紡錘で紡いだ糸のなく、紡錘なしで、糸をそのまま巻込んだ束を数える場合に使用する。
(45) a. dua kelindan benang
two CL thread
b. delapan rian benang
eight CL thread

(4) Tusuk
Tusuk という類別詞は、sate「肉の串焼き」を数えるときに使う類別詞である。
(46) a. lima tusuk sate ayam
five CL sate ayam (traditional food from chicken)
b. sepuluh tusuk sate kambing
ten CL sate kambing (traditional food from maton)

(5) Bungkus
語源的に bungkus という言葉は包むという意味である。類別詞として bungkus は葉「特にバナナの葉」や紙、ビニールなどで包んだものを数えるときに使う。
(47) a. lima bungkus rokok
five CL tabacco
b. tiga bungkus nasi
three CL rice

3.2.4 枝分かれしたまとまりを数える類別詞

インドネシア語では、作物の類に応じて五種類の類別詞がある。
(1) Bulir
Bulir は穀物の枝分かれした部分を数える類別詞である。対象とするものは、padi「稲穂」や kedelai「大豆の穂」、gandum「麦の穂」、enjelai「きび」などのようなものである。
(48) a. dua bulir padi
two CL rice
b. sepuluh bulir gandum
ten CL wheat
c. lima bulir kedelai
five CL soybean

(2) Gagang
インドネシア語では、gagang という名詞は軸という意味である。類別詞として gagang は、sirih「植物の類」のような地上に這う植物の軸分かれした部分を数えるときに使う。
(49) dua gagang sirih
two CL sirih

(3) Tandan
Tandan という名詞は集合体の実を持つ作物にある長い茎という意味である。類別詞として tandanは、pisang「バナナ」、kelapa「ココナツ」、enau「椰子の類」、pinang「椰子の類、びんろうじ」などのような長い茎に付いている実の幹分かれした部分を数えるときに使用する。
(50) a. tujuh puluh dua tandan pisang
seventy two CL banana
b. sepuluh tandan kelapa
ten CL coconout
c. dua tandan enau
two CL palm

(4) Sisir
Sisirは、バナナの房を数える専用の類別詞である。
(51) tujuh sisir pisang
seven CL banana

(5) Tangkai
Tangkai という類別詞は、花、実、葉などがついた枝を数える類別詞である。この類別詞は、rambutan「ランブータン」、jambu「果物の名、(ザボン)」、anggur「ブドウ」など木になっている枝分かれした果物やいろいろな種類の花が木になっている枝分かれした花を数えるときに使う。また、daun salam「(laurel) ロレーの葉」、daun jeruk「ミカンの葉」のような木になっている枝分かれしたものを数えるときにも使用する。しかし、花や実、葉がついていない枝は tangkai で数えられないが、buah で数える。
(52) a. dua tangkai rambutan
two CL rambutan
b. lima tangkai jambu
five CL shaddock
c. tiga tangkai anggur
three CL grape
d. setangkai mawar
one CL rose
e. lima tangkai daun salam
five CL laurel

3.2.5 堆積状に集まったものを数える類別詞

インドネシア語では、堆積状に集まったものを数える類別詞は tumpuk と onggok がある。Tumpuk と onggok（時々 longgok でも呼ぶ）、これらの類別は、どちらも同じ意味を持つ類別詞である。よって、使用する際にはどちらにも置き換えることができる。この類別詞の対象とするものは雑然と積み重なっていることができる全てのものである。

（53）a. dua onggok pasir
two Cl sand
b. seonggok sampah
one CL garbage
c. setumpuk awan
one CL cloud
d. setumpuk uang
one CL money

3.2.6 層状になったものを数える類別詞

インドネシア語では、層状になったものを数える類別詞は、下記のようなものがある

（1）Lapis

類別詞 lapis は、層状になっているものの層を数える際に使う。この類別詞は、体にまとっていた pakaian「衣装」や積み上げられている衣装の層を表す。また、層になっている kue「ケーキ」や agar-agar「ゼリー」などのようなデザートも対象となる。また、lapisan tanah「土壌層」や lapisan pasir「砂層」などの層を数えるときにも用いることができる。

（54）a. lima lapis pakaian
five CL clothes
b. agar-agar dua lapis
jelly two CL
c. tiga lapis lapisan tanah
three Cl soil horizon

（2）Susun

Susunという類別詞は、上に述べた onggok と tumpuk とは逆のことである。よって、susun は、整然と積み重ねたものを数える類別詞である。

（55）dua susun pakaian bekas
two CL clothes old

（3）Baris / Deret

Baris と deret 或いは leret はどちらも列を作ることとするものを表す類別詞である。同様のものを表す類別であっても、いつもそれを置き換えることができない。特に、barisは、対象とするものが kalimat「文章」である場合、deretと置き換えることができない。

（56）a. dua baris gigi ～ dua leret gigi
two CL tooth
b. sepuluh baris pohon kelapa ～ sepuluh deret pohon kelapa
ten CL coconut tree
c. dua baris tulisan Arab ～ *dua deret tulisan Arab
two CL Arabic writing

3.2.7 ペアのものを表す類別詞

インドネシア語のペアを表す類別詞は以下のようなものである。

（1）Pasang

Pasang は、二つで一揃いのものを数える類別詞である。インドネシア語でのペアの概念は英語でのペアの概念と異なっている。インドネシア語でのペアの概念は、桐生（2004）に書いた記述されているネワール語のペアの概念と同じである。すなわち、独立したものが対をなしている場合のみである。よって、英語で a pair of で数えることができるメガネやズボンなどのものは pasang で数えることができない。Pasang で数えるものは無生物だけではなく、カップルの人間や動物のつがいにも用いられる。

（57）a. sepasang sepatu
one CL shoes
b. dua pasang mata
two CL eyes
c. sepasang sayap
one CL wing
d. sepasang penganten
one CL bride
e. sepasang rusa
one CL deer

（2）Perangkat / Set

Perangkat という類別詞は set という英単語と同じ意味である。そのため、現在のインドネシア語では、両方ともよく置き換えられるようになった。Pasang と異なって、perangkat は、二つで一揃いのものではなく、二つ以上のもので一揃いのもの数える類別詞である。Perangkat で数えるものは、食卓、ソファー、寝室の家具のような一揃いが二つ以上であるもので、それが一つのものであるならば、他のものに対して補足物である。

（58）a. seperangkat meja makan
one CL dinning table
b. dua perangkat sofa
two CL sofa
c. seperangkat perabot kamar
one CL bedroom set

Perangkat は pakaian「衣装」を数える場合にも使用する。この場合は、服の上下だけではなく、topi「帽子」や sepatu「靴」、kaus kaki「靴下」、dasi「ネクタイ」なども含めている。

（3）Setel

Pasangと同じように、setel も二つで一揃いのものを

数える類別詞である。しかし、この類別詞はもっぱらpakaian「衣装」に対して使用する類別詞である。これが対象とする衣装は、服の上下という意味になる。

（59）tiga setel baju baru
three CL new clothes

3.3 計量類別詞

分類することにより、インドネシア語の計量類別詞を二種類に大きく分けることができる。一つは、計量の単位に基づき正確な量を表す類別詞、もう一つは、最小単位が意識されないものを形状や状態に着目して個別化することで数える類別詞である。これは、桐生（2004）が分類したネワールの計量類別に従って、分類することである。本研究では、インドネシア語の計量類別詞の特徴をこの二つの分類に基づき詳しく見ていくことにする。

3.3.1 全体に対する部分

インドネシア語で、全体に対する部分を数える類別詞はいくつかある。それは：

（1）Carik

Carikという類別詞は、対象となるものがkertas「紙」やkain「織物」などのような平たいものである。Carikで数える紙は、コピー用紙のような離れ離れの紙ではなく、ノートの１ページを破った紙のようなものである。コピー用紙のような離れ離れの紙は、先に述べたようにhelaiを使って数えられる。しかし、このcarikで着目する点は、その前の紙が綴じてあるということである。
それは布の場合にも同じである。Carikで数える布においても、着目する点は、その前の布は広い布ということである。その広い布から一部分を切る場合、carikで数える。

（60）a. kertas secarik
paper one CL
b. secarik karcis
one CL ticket
c. secarik kain kasa
one CL gauze

（2）Belah

Belahは、一対のものの片方に対して使う類別詞である。よって、インドネシア語では、dua belah mata（two CL eye）とsepasang mata（one CL eye）と同じものを表す。しかし、前者には片方の「目」に焦点があり、後者には両方の「目」に焦点がある。つまり、それらの類別詞の使いわけは、着目するところに依存する。ものの片方に着目する場合、belahを使い、ものの両方に着目する場合、pasangを 使う。Belahという類別詞は一対の無生物の片方に対してしか使えず、人間のカップルや動物のつがいに対しては使えない。

（61）a. dua belah tangan
two CL hand
b. mata sebelah
eye one CL
c. dua belah pipi
two CL cheek

（3）Iris/ Kerat/ Potong

これらは、どちらも全体から切離されたものの一部分を数える類別詞であるが、対象となるものにおいて、異なるところがある。Irisという名詞は、薄く切ったものという意味である。類別詞としてirisは、ものの全体から薄く切離された一部分を数えるときに使用する。普通、irisの対象となるものは、果物や野菜のようなものである。

Keratという名詞も切ったものという意味であるが、切り方はirisよりもっと厚い。つまり、daging「肉」やroti「パン」などのようなものの全体から少し厚く切離された部分を数えるときに、keratという類別詞を使用する。また、potongは、irisとkeratよりもっと厚く切離された部分を数えるときに使う。

（62）a. seiris semangka
one CL water melon
b. dua iris jahe
two CL ginger
c. dua kerat roti
two CL bread
d. tahu seratus potong
tofu one hundred CL
e. sepotong roti bakar
one CL burned bread

Potongという類別詞は、以上に取り上げたものの他に、荷物を数えるときにも使う。普通、barang「荷物」は積み重なった状態に置かれた荷物を意味する。そのたくさんの積み重なっている荷物の一部分をpotongで数えられることができる。

（63）sepotong barang
one CL baggage

（4）Bait

Baitは、詩や歌の全体に対する一部分を数える類別詞である。

（64）a. dua bait puisi
two CL poem
b. sebait lagu
one CL song

（5）Ulas

みかんの皮をむいて、中身の一部分を数える場合に対してulasという類別詞を使用する。

（65）jeruk seulas
orange one CL

（6）Penggal

Kalimat「文」の全体に対する一部分を数えるときに

は、penggalという類別詞を用いる。

（66）dua penggal kalimat
two CL sentence

（7）Siung

Bawang merah「赤いにんにく」や bawang putih「にんにく」のようなものは、玉全体の内の１片を数える場合、siung という類別詞を用いる。

（67）a. lima siung bawang merah
five CL union
b. tiga siung bawang putih
three CL garlic

（8）Ruas

Bambu「竹」や tebu「砂糖きび」のような植物の一本全体に対する一部分或いは一本の指全体に対する一部分を数える場合、ruas という類別詞を使用する。

（68）a. tiga ruas tebu
three CL sugar cane
b. dua ruas bambu
two CL bamboo
c. seruas jari
one CL finger

この類別詞は、先に述べた ruas という個別類別詞と形態的には、同じようであるが、意味的には全く関連がない。これを考慮すると、類別詞 ruas は個別類別詞と計量類別詞の両方に属されていることがわかる。

3.3.2 貨幣に関する類別詞

インドネシアで、通貨単位は、rupiah である。現在の日常生活にある最低の貨幣単位は25 rupiah であるが、資本市場或いは銀行においての最低の貨幣単位は sen である。しかし、インドネシア独立初期の小説やインドネシアのことわざの本では、いくつかの貨幣単位を表す類別詞を見つけることができた。それらの最低貨幣から最高貨幣までは、以下のものである。

1. pitis = 0.25 sen
2. rimis = 0.5 sen
3. sen = 0.01 rupiah
4. benggol = 2.5 sen
5. kelip = 5 sen
6. ketip = 10 sen
7. tali = 25 sen
8. kupang = 50 sen
9. suku = 0.5 rupiah
10. rupiah = 100 sen

以上の貨幣単位を見てみると、kupang と suku は同じ金額なので、rupiah に焦点があれば、suku を使い、sen に焦点があれば、kupang を使うということがわかる。

3.3.3. 計量の単位に関する類別詞

インドネシア語では、計量の単位を表す類別詞はいくつかある。

1） 容器に関する計量の単位

インドネシア語では、容器を単位として計量する類別詞は、入れ物を表す言葉全てが、それにあたる。それは、belanga「土鍋」、botol「ビン」、cangkir「カップ」、ember「水くみおけ」、gelas「グラス」、kancah「大きい鍋」、kaleng「缶」、kantong「小袋」、karton「カートン」、karung「袋」、keranjang「かご」、koper「トランク」、kotak「箱」、kuali「鍋」、mangkuk「ちゃわん」、peti「木や鉄から作った箱」、piring「皿」、sendok teh「小さじ」 sendok makan「大さじ」、tempayan「大きな水入れ土器」、 tong「樽」などのようなものである。これらの容器は、類別詞として、直接数詞が付くことができる。

（69）a. dua buah piring
two CL plate
b. nasi dua piring
rice two CL

上の例より、（69）a. にある piring は、直接数詞が付くことができないため、類別詞ではなく、名詞として働いている。一方、（69）b. にある piring は直接数詞が付くことができるため、類別詞として働いている。

2） 手に関する計量の単位

インドネシア語では、容器による計量の他に、容器に類した計量類別詞として、手を基準にした計量類別詞もある。手による計量類別詞は以下のようなものである。

1. cubit : 親指と人差し指の間に鋏んだ分量
2. genggam : 片手のひらに載せたり、掴んだり或いは握ったりする分量。
3. raup : 両方手のひらに載せたり、掬ったりする分量
4. cekak : 親指と中指でつまんだほどの分量

分量を表す類別詞の他に、手に関する計量類別詞には、大きさを表す類別詞も存在する。

1. kacak : 五本の指先を一つにした大きさ
2. jari : 指の大きさ
3. cak : 両方の手を合わせた大きさ
4. tapak : 手平の大きさ

3）重さに関する計量の単位

インドネシア語では、重量の単位として、kilogram（kg）「キログラム」や gram（gr）「グラム」などの重量の単位を使用する他に、いくつか別の重量の単位も存在する。以下に、その中の重量の単位を挙げる。

1. gram : グラム
2. ons : 100グラム
3. pon : 5 00グラム
4. kati : 614 グラム
5. kilogram : キロ
6. pikul : 62.5 キロ

7. kwintal : 100キロ
8. ton : 1000キロ

以上に挙げた重量の単位の他に、インドネシア語ではもっぱら貴金属や宝石の目方に対して、使う重量の単位もある。それは、金銀の目方に対して使う tahil と rial という類別詞やダイヤモンドなどの鉱石の目方に対しては karat という類別詞もある。

1. tahil/ bungkal : ±37.8 グラム
2. kati : ±75.6 グラム
3. rial : ±20 グラム
4. karat : ±200 ミリグラム

また、kati という計量類別詞の単位は、面白いことに、金銀の目方と他のものの目方と異なることがわかる。

4）長さに関する計量の単位

インドネシア語では、長さを表す計量の単位類別詞は、二種類に分けることができる。一つは、国際的に使う正確な長さを表す計量の単位の類別詞、もう一つは、伝統的に長さを表す計量の単位の類別詞である。ここで、その両方の長さを表す計量の単位の類別詞を解明できるよう試みる。

インドネシア語の正確な長さを示す計量の単位は国際的に使う単位と同じものである。その中の長さを示す計量の単位は、以下のようなものである。

1. millimeter : ミリメートル
2. sentimeter : センチメートル
3. inci/ dim : 0.254 メートル
4. Kaki : 0.3048 メートル
5. yard : 0.9144メートル
6. meter : メートル

インドネシア語の伝統的に長さを示す計量の単位の類別詞は、だいたい体の部分の長さに基づいた類別詞である。それらの類別詞は、以下のものである。

（1）Jengkal

Jengkalは、親指先と小指先で計った長さである。

（70）sejengkal tanah
one CL land

（2）Hasta

Hasta は、ひじから中指の端までの長さである。

（71）Seperti berkain tiga hasta（インドネシア語のことわざ）
like Pref. cloth three CL

（3）Depa

Depaは、両方の手をひろげて、右の手の中指から左の手の中指までの長さである。よって、１depaは4 hasta ぐらいになる。

（72）Panjang papan itu tiga depa
length wood dp three CL

（4）Tapak

この tapak は、以上に述べた大きさを表す計量の単位類別詞 tapak とは異なっている。大きさを表す類別詞 tapak は、手平という意味であるが、ここでの tapak は、足の裏という意味である。長さを表す計量の単位類別詞として、tapak というのは、踵から親指先までの長さである。

以上の長さを表す計量の単位の他に、kabung、bidang、という類別詞も存在する。これらは、体の部分の長さに基づいていない伝統的な類別詞である。Kabungというのは、４hastaぐらいの長さであり、bidang というのは、５hasta ぐらいの長さである。この bidang は、3.1.3.(5) に述べた bidang とは、異なっている。前に述べているように、個別類別詞としての bidang は、広さが決まっていない表面が対象となるが、逆に、長さを表す計量の単位としての bidang は、普通、長さの決まっている tikar「ござ」や layar「幕」、kulit「皮」などのようなものを計る場合に使用する。従って、この両方の bidang は、異なる意味をもっていると言える。

（73）sekabung kain putih
one CL cloth white

（74） dua bidang tikar
two CL mat

長さを表す計量単位に類した類別詞として、距離を表す計量単位の類別詞がある。Meterの他は、これらに含まれている類別詞は、以下のようなものがある。

1. kilometer : 1000 メートル
2. pal : 1500 メートル
3. tombak : 12 フィート（±4 メートル）
4. mil : 1609.30 メートル

Meter, kilometer, pal, tombak という距離を表す計量単位の類別詞は、通常、ある場所から他の場所の間の距離であるが、mil という距離を表す計量単位の類別詞は、海面上や航海の距離を表す。

インドネシア語では、伝統的に距離を示す計量の単位の類別詞が体の部分を基にする類別詞もある。この場合、langkah という類別詞で表す。Langkah というのは、歩くときの右足と左足の歩幅である。

5）広さに関する計量の単位

広さに関する計量の単位として、インドネシア語では国際的に使う正確な広さを表す計量の単位と伝統的に広さを表す計量の単位が存在する。国際的に使う正確な広さを表す計量の単位は、meter persegi (m^2)「平方メートルや hektar(ha)「ヘクタール」などがある。一方、伝統的に広さを表す計量の単位はbau という類別詞が存在する。類別詞 bau は土地の広さを計る際に使う類別詞であり、その土地の広さは約 7096 平方メートルである。

6）容量に関する計量の単位

インドネシア語では、容量を表す計量の単位としての

類別詞は、国際的な計量の単位と伝統的な計量の単位がある。インドネシア人の日常生活の中では、いまだに、両方とも使われている。容量を示す国際的な計量の単位は以下のようなものである。

1. sese（cc） : 0.001 リットル
2. liter : リットル
3. galon : 3.785 リットル
4. barel : 158.998 リットル
5. kubik : 1000 リットル

通常、インドネシア語の伝統的な計量の単位は、beras「米」やpadi「稲」、kacang-kacangan「豆」などのようなものを計る場合に対して使用する。それらの計量の単位は、以下のようなものである。

1. cupak :（一リットルより少し多い数）
2. gantang : 4 cupak
3. sukat : 4 gantang

3.3.4 時に関する計量類別詞

インドネシア語の時を表す計量の単位としての類別詞は以下のものが挙げられる。

1. detik : 一秒の期間を表す
2. menit : 60秒の期間を表す
3. jam : １昼夜を24等分ひと区切りを表す
4. hari : 日数を表す
5. minggu : ７日数を表す
6. bulan : 暦の月を表す
7. kwartal : ３ヶ月間の期間を表す
8. semester : 半年の期間を表す
9. tahun : 年を表す
10. windu : ８年間の期間を表す
11. dasawarsa : 10年間の期間を表す
12. abad : 100年間の期間を表す

3.3.5 形状に基づく計量類別詞

桐生（2004）によれば、形状に基づく類別詞は、滴や飛沫、塊になったものを数える類別詞である。インドネシア語では、形状に基づく計量類別詞は以下のようなものがある。

1）Tetes

Tetesは、露や涙、汗などのように滴る水滴を数える類別詞である。また、水や油でも、tetes で数えると、何かの表面に丸くできた滴状の水や油を示すと言える。

（75）a. dua tetes air mata
two CL tear
b. nila setetes
nila（bitter liquid） one CL
c. setetes embun
one CL dew

2）Titik

Titikは飛び散った滴を数える場合に対して使う類別詞である。よって、通常、titik で数える水滴は、雨のような水滴である。

（76）dua titik hujan
two CL rain

3）Gumpal/ Bingkah

Gumpalと bingkah 或いは bongkah は、どちらもものの塊を示す類別詞である。Gumpal は土や鉱物、血、肉などのような何でも全ての塊に対して使われるが、bingkah或いは bongkah は、土と鉱物に対してしか使われない。よって、bingkah 或いは bongkah で数える全てのものは、gumpal で置き換えることができるが、逆に、gumpal で数える全てのものは、bingkah で置き換えることができない。また、gumpal の対象となるものは、bingkah よりかなり広いということが言える。

（77）a. segumpal darah
one CL blood
b. dua gumpal daging
two Cl meat
c. lima gumpal tanah liat
five CL clay

（78）a. sebingkah emas
one CL gold
b. dua bingkah tanah
two CL soil
c. sebongkah batu
one CL stone

4）Kepal

Kepal は、おにぎりのようなものを手で丸めて固まり状にしたものを数える類別詞である。

（79）tiga kepal nasi
three CL rice

5）Buku

Buku という類別詞は、粒状のものが固まって塊になったものを数えるときに使う。この類別詞の対象とするものは、砂糖や塩などの固まったものとご飯や土などのような塊がある。

（80）a. gula dua buku
sugar two CL
b. sebuku nasi
one CL rice

3.3.6 行為に基づく計量類別詞

行為に基づく計量とは、ある特定の行為一回分の分量を表すものである（桐生、2004）。インドネシア語の行為に基づく計量類別詞は suapや teguk、kali がある。

Suap は飯を五本の指でつまんで、口の中に入れて食う分量を表す計量類別詞である。また、teguk は水や他の飲みものひと飲みの分量を表す。一方、kali という計量類別詞は、連続した行為や規則に反復する行為や定期的に行われる行為、繰り返されることが予測或いは期待

される行為や行事を数えるときに使う。

(81) sesuap nasi
one CL rice

(82) dua teguk air
two CL water

(83) a. Mendengar dua kali
listen two CL

b. tiga kali pukulan
three CL beating

c. tembakan yang kedua kali
shooting RP second CL

4. 結論

インドネシア語の類別詞を個別類別詞、集合類別詞、計量類別詞という、一般的に三つの分類に分けて、それぞれの類別詞の特徴を見受けてきた。個別類別詞は、人間、動物、無生物という、三つの主な範疇に分けられ、かつ、それぞれを統括する類別詞が存在する。それは、人間では、orang という類別詞、動物では、ekor という類別詞、そして、非人間、非動物は、buah という類別詞がある。この三つの範疇をみてみると、インドネシア語話者が個別類別詞を使用するには、生物或いは無生物だけに注目するのではなく、自立的に動くことが可能であるかどうかがもっとも注目すべき点であるということがわかる。よって、生物学的に生物のものであっても、個別類別詞の範疇としてのものは、無生物の部類に含まれる可能性が高い。無生物において、一般的に buah という類別詞が使用されるが、種類の数が多かったため、それぞれの種類に対しての類別詞も存在する。分類することにより、形状や機能によって、無生物範疇は、約30種類のインドネシア語の個別類別詞があった。

インドネシア語の集合類別詞は、流動的な集まりや総計的な集まり、個別のものを束ねたもの、枝分かれしたまとまり、堆積状に集まったもの、層状になったもの、ペアのものを表す類別詞と七つに分けることができる。また、計量類別詞は、六つに分けられ、全体に対する部分やお金に関するもの、計量の単位に関するもの、時に関する計量、形状に基づく計量、行為に基づく計量類別詞がある。

計量の単位に関する類別詞は、国際的に使う正確な単位と伝統的にインドネシアで使われる単位がある。伝統的な計量単位は、体の部分（特に手）を基準に使用される単位がかなり多いが、体の部分を基準にされていない計量単位もいくつかある。それらの計量は、大抵不正確な計量単位である。例えば、計量類別詞の単位として katiは、金銀を計る場合と米を計る場合の目方が異なる。金銀を計る場合、１kati の目方は75,5グラムのであり、米を計る場合、１kati の目方は614グラムである。

以上に述べているように、インドネシア語の類別詞は、一般的に三つの分類に分けることができるが、この区別は、実は絶対的なものではない。なぜかというと、例えば、berkas という類別詞は、個別類別詞的にも働くことができ、かつ、集合類別詞的にも働くことができるからである。また、berkas と少し異なり、ruas および bidang という類別詞も個別類別詞的と計量類別詞的の二つの分類に働くことができる。

ノート

1） オーストロネシア語族は広大な地域に広がっており、西はマダガスカルから、東はイースター島まで、北は台湾からハワイを経て、南はニュージーランドにわたっている （Cristal,1987: 317)。

2） パンチャシラとは五つの柱がインドネシア国家構成の理念になるものである。それは、1.「一つの神への信仰」2.『公平で洗練された「人道主義」』3.『インドネシアの団結「民族主義」』4.『話合い、代表会議の中で賢明なる英智によって指導される「民主主義」』5.『すべてのインドネシア国民に対する公平さ「社会正義」』の原則。

グロス記号

CL	Classifier
dp	Demonstrative pronoun
Pref	Prefix
RP	Relative Pronoun

参考文献

桐生和幸（2004）「ネワール語の類別詞」西光義弘、水口志乃扶　編『類別詞の対照』pp.185-216、くろしお出版.

水口志乃扶（2004）「「類別詞」とは何か」西光義弘、水口志乃扶　編『類別詞の対照』pp. 3-22、くろしお出版.

三保忠夫（2004）『木簡と正倉院文書における助数詞研究』風間書房

Adelaar, Karl Alexander（1985）*Proto Malayic: The Reconstruction of its Phonology and Part of its Lexicon and Morphology. Alblasserdam*: Ofsetdrukkerij Kanters B.V.

Alisjahbana, S. Takdir（1957）*Dari Perdjuangan dan Pertumbuhan Bahasa* Indonesia. Jakarta: Pustaka Rakjat.

Aikhenvald, Alexandra Y.（2000）*Classifier: A Typology of Noun Categorization Devices.* Oxford University Press.

Brataatmaja, T. Heru Kasida.（1987）*Morfologi Bahasa Indonesia*. Yogyakarta: Kanisius.

Crystal, David（1987）*The Cambridge Encyclopedia of Language*. New York: Cambridge University Press.

Chung, Sandra（2000）On Reference to Kind in Indonesian. Natural Language Semantics 8: 157-171.

Departemen Pendidikan dan Kebudayaan（1990）*Kamus Besar Bahasa Indonesia*. Jakarta: Balai Pustaka.

Halim, Amran（1989）*Politik Bahasa Nasional*. Jakarta: Balai Pustaka

Hasan, Alwi. et all.（2000）*Tata Bahasa Baku Bahasa Indonesia*. Jakarta: Balai Pustaka

Hopper, Paul J.（1986）Some Function of Classifiers in Malay, In Craig *ed. Noun Classes and Categorization*, pp. 309-325. Amsterdaam: Jhon Benjamins.

Hudson,Grover（2000）*Essential Introductory Linguistics*. Malden, Massachusetts: Blackwell

Kentjono, Djoko *et all.*（2004）*Tata Bahasa Acuan Bahasa Indonesia untuk Penutur Asing*. Jakarta: Wedatama Widya Sastra.

Keraf, Gorys（1984）*Tata Bahasa Indonesia*. Ende, Flores: Nusa Indah.

Kridalaksana, Harimurti（1994）*Kelas Kata dalam Bahasa Indonesia*. Jakarta: Gramedia Pustaka Utama.

Lyon, Jhon（1978）*Semantics:* Volume 2. Cambridge: Cambridge University Press.

Masinambow, E. K. M.& Paul Haenen ed.（2002）*Bahasa Indonesia dan Bahasa Daerah*. Jakarta: Yayasan Obor

Muhadjir（2004）Perkembangan Bahasa Indonesia, In Masinambow, E. K. M.& Paul Haenen *ed. Bahasa Indonesia dan Bahasa Daerah*. Jakarta: Yayasan Obor

Ramlan, M.（1985）*Tata Bahasa Indonesia: Penggolongan Kata*. Yogyakarta: Andi Offset.

Wilujeng, Ayu（2002）*Inti Sari Kata Bahasa Indonesia*. Surabaya: Serba Jaya.

[付記]

本稿は、現時点におけるインドネシア語の類別詞を調査・分析しようとしたものである。執筆者スリ=ワーユニ氏（Sri Wahyuni）は、同国西スマトラ（West Sumatra）・パダン市（Padang）のアンダラス大学（Andalas U.）文学部の現職講師である。日本に留学し、本学教育学研究科で日本語学の研究に従事しつつあり、その総括の一端として本稿を執筆した。なかには、既に、消滅しつつある類別詞も記録されている。貴重な論考である。

2005年9月30日

島根大学教授（日本語学）　三 保 忠 夫　識